

北斗だより

令和5年度 第7号
(10月1日発行)
愛媛県立今治北高等学校

「真のボランティア」とは

進学課長 越智 祐治

暑さ寒さも彼岸まで、と言われますが、少しずつ過ごしやすい季節になってきましたね。

皆さんはボランティア活動に参加したことがありますか。私は大学1年生の冬、所属していた剣道部の先輩に言われて、歳末助け合い募金のボランティアに参加したことがあります。私の通っていた大学の体育会では、1年生が参加するのが恒例になっていました。当時は先輩が言うことは「絶対」でしたから、1日に10万人が通ると言われていたスクランブル交差点前にあったデパートの前で、朝から夕方まで募金箱を持って立っていたのを今でも覚えています。最初のうちは、恐らく蚊の鳴くような声で恥ずかしそうに募金をお願いしていたからか、目の前を多くの人が素通りしていきました。「どうして誰も協力してくれないんだろう」「俺はここで何をしているんだろう」など、参加していた他の体育会の1年生も、もしかしたら同じことを考えていたかもしれません。楽しい時間は過ぎるのが早く感じられますが、そうでない場合は皆さんの想像するとおりです。しばらくして小さい子ども連れの夫婦が私の前を通りかかりました。少し立ち止まって母親が子どもに話しかけ、何かを手渡しました。その子は私の前に走ってきて、募金箱に募金をしてきました。「ありがとうございます」と自然に声が出ました。この「ありがとう」は、本来はこの家族からの募金に対してなのでしょうが、この時はそれだけでなく、私の募金箱に募金をしてくれ、私をある種の「孤独」から救ってくれたの感謝の気持ちからだったと思います。不思議なもので、その後は募金をして下さる方がどんどん増えていきました。終了間際の頃には、「恵まれない子ども達に愛の手を」と大きな声で多くの通行人に呼びかけている、午前中の自分とは全くの別人がおり、その後、半ば「強制的」に参加した「ボランティア活動」は終了しました。

Collins English Dictionaryでは、volunteerを以下のように定義しています。

A volunteer is someone who does work without being paid for it, because they want to do it. また、A volunteer is someone who offers to do a particular task or job without being forced to do it. とも書いています。要するに、「誰かに強制されることなく、自分が求めて行う、無償の仕事を行う人」がボランティアです。学校でも定期的にボランティアの募集がされています。「人手が必要なのですが、給与は支払えません。誰か手伝ってくれませんか。」その活動の趣旨に賛同した人が、「自由意志」で行うもので、北高生も多くの人が参加していることには本当に頭が下がります。

そういった「ボランティア活動」に参加するのも当然ボランティアでしょうが、たとえ誰にも気づかれなくても、誰かに褒められなくても、ボランティアの証明書を出してもらえなくても、落ちていたゴミを拾う、トイレの履物を揃える、汚れているところを見つけたらきれいにする、休み時間は皆の健康のため窓を開けて換気する、といった行為も、同様に立派なボランティアだとは思いませんか。

半強制的に参加した歳末助け合い運動でも、18歳の少年は何らかの達成感を覚えました。本来、ボランティアは、「世のため、人のため」にあって、自分の欲望を満たすものに使われるものではありません。ボランティアは行為そのものが目的としてではなく、行った結果として、喜びや満足が得られたり、大学等の出願書類にアピールできることとして記入できたりするものであって欲しいと思います。誰かに強制されることなく、やった方がいいと思えることが自然にできる方が格好いいですよ。

※お気付きの点や、御意見・御質問などありましたら、下に記入の上、お子さんを通じて担任まで御提出ください。

今治北高校の日々の様子をホームページに掲載しています。「今北日記」「生徒の活動」「部活動」など、ぜひ御覧ください。

今治北高等学校 学校公式サイト <https://imabarikita-h.esnet.ed.jp>

----- 切 り 取 り -----

____年 ____組 名前_____